



おやこアットエス

津波避難にシェルター艇2隻導入 浜松の保育園

2012年10月20日(土)

カテゴリ: 子育て・教育ニュース 投稿者: 静岡新聞

浜松市西区の私立「さざんか保育園」が南海トラフ巨大地震に備え、津波避難用のシェルター艇を導入する。園が海岸に近く、避難が間に合わない恐れがあるため、「園児の命を守るのが園の責任」(安藤香澄園長)と、山口県の造船会社ニシエフに開発を直談判した。交渉に加わった不動産仲介などのマストレ(浜松市西区、都築倍弘社長)もニシエフと代理販売契約を結び、シェルター艇事業への参入を決めた。

シェルター艇は大型商船用救命艇を改良した。全長6・5メートル、幅2・6メートル、高さ2・8メートルで、水面に浮き、転覆しても起き上がる。外壁を二重にし、内壁もクッション材で覆うなど安全性を高めた。定員は大人26人で、子どもなら60人が乗れる。水や食料を備蓄しておけば、3～7日間漂流しながら救助を待てるという。同園は2隻購入し、今月下旬と11月下旬に1隻ずつ納入される。安藤園長は「子どもを預けてくれる保護者の信頼に応えたい」と語る。

同園は海岸から約400メートル。同区では最大14メートルの津波高が想定される。東日本大震災後、近くの清掃工場までの避難訓練を繰り返したが、園児約120人を伴いながらでは20分以上かかってしまった。避難タワーも設置費用が高額な上、園児が階段を上がるのに危険が伴うため、効果的でないと判断した。

安藤園長は「それならば、潜水艦のようなシェルターを」と、ネットでニシエフを探し出した。同社も「一刻も早く園児の安全を確保したいとの思いに動かされた」とシェルター艇開発を急いだ。

マストレは都築社長が同園の理事を務めていることから開発の話し合いに参加。陸上設置用に脚を付けるなどの提案が採用された。さらに、「地域の人が安心して暮らせるよう、津波対策の選択肢を増やしたい」(都築社長)とシェルター艇の販売も決断。定員を22人に減らしてトイレを備えるなど“マストレ仕様”にして、11月中旬から1隻500万円程度で売り出す。



津波避難用に開発されたシェルター艇=9月25日、山口県下関市(マストレ提供)

[← 一覧に戻る](#)